

2013年度 日本獣医がん学会 第3回理事会 議事録
於： 第10回 日本獣医がん学会

日時：2014年1月26日(日) 12:40-13:30

場所：大阪ニューオータニ・ウイステリア (B1F)

議長：石田卓夫会長

出席者(25名)(敬称略)：石田卓夫、藤田道郎、杉山大樹、中尾淳、浅葉慎介、溝呂木啓之、武信行紀、信田卓男、児玉和仁、川村裕子、日高勇一、圓尾拓也、井上明、児玉恵子、佐藤敏彦、福山泰広、浅野和之、川野悦生、細谷謙次、皆上大吾、堀英也、高木哲、南毅生、賀川由美子、古川敬之、

欠席者(2名)：本間尚巳、辻本元

議題：

報告事項

1. 事業報告：石田会長

1) 会員数(2014年1月16日現在)

正会員：2130名 準会員：16名 名誉会員：1名 会員合計：2147名 賛助会員：13社

2) 第9回学会報告

正会員：519名 準会員：7名 非会員：32名 学生：45名

講師他：57名(含むアルバイト名) 関係者：36名 参加者合計：696名

場所：麻布大学

2. 各委員会・部会報告(●)と審議事項(■)

<学会運営に関する委員会>

1) 学会企画委員会：古川委員長

●第9回学会アンケートを実施した内容を報告(資料：別紙)。メインテーマ以外のトピックについて充実させる目的で行った。

●第10回がん学会にて医学との連携を目的に比較腫瘍学セミナーを実施したが好評を受けている。

●第11回の学会企画は、初日午前中は各部会持ち回りで企画を考案中で、午後は大会場を2分割し、内科・外科(外科部会)のテーマを扱う。2日目はメインテーマと卒後教育セミナーを継続する。

(石田)：第11回(東京)のメイン会場は500名という制限があり、2日目のメインテーマはかなり内科系のテーマのため、外科系のテーマも充実させるよう企画に配慮をする。

(信田)：次回企画の内容を絞り、理事会で承認を得てから依頼する手順をお願いします。

(石田)：学会企画を早めに計画する。⇒承認された。

2) 学会雑誌編集委員会：藤田委員長

●査読システムの変更について。従来はメイン査読者と査読者で論文をやりとりしていたが、期限が過ぎても編集担当に提出がないことが多々ある。その改善のため、状況を把握する目的で、すべて編集者に査読結果を送付する方法に変更する。

●学会雑誌Vo. 4 No. 2を2013年12月に発行した。2014年3月にVol. 5 No. 1を発行できる予定。

●技術講座は内科部会でVol. 5 No. 1担当、No. 2から外科部会に依頼することを内諾貰っている。

- 学会雑誌投稿を促す目的で、学会ホームページにFAQを設置する。
- 投稿数を増加させるため、同意承諾書の提出方法を変更する方向で検討中であり、引き続きメール会議等で検討する。

3) 認定医認定委員会：藤田委員長

●認定医試験報告

(2種・1種一次：2013年7月7日(日)、1種二次：2013年10月14日(月祝)実施)

2種 合格者28名、合格率15.9%、取得者合計数268名

1種一次 合格者7名、合格率28%、取得者合計数50名

1種二次 合格者2名、合格率20%、取得者合計数36名

■合格率の割合を2種→1種一次→1種二次で、合格率が厳しくなる審査基準を今後検討する。⇒承認された。

■1種二次合格者2名(五十嵐・市川)の認定委員会メンバーに加入に関して ⇒承認された。

■認定委員会の学識経験者として細谷先生に加わって頂く。⇒承認された。

■試験開催日と会場を10/19(日)予定で調整中である。会場は麻布大学または日本獣医生命科学大学を2014年4月以降に決定する。⇒承認された。

4) 専門医制度実行委員会：南委員長

●2020年世界がん学会開催までに専門医制度を本会のみで創るのか？アジアと協力して創るのかを考えていく。

5) JONCOL 編集委員会：井上委員長

●JONCOL No. 16のE-Bookが2014年1月25日に発行された。

■JONCOL No. 17は第10回の肝臓腫瘍をメインテーマに、他のプログラムからも抜粋して2014年7月発行予定。⇒承認された。

6) 学会実行委員会：福山委員長

●会場変更において細かい問題点はあったが、大きな問題は無かった。

●第11回(東京)は企画委員会と相談して、改善して行く。

意見・質問

・(古川)：会場のスライド投影で、パソコンとプロジェクタの相性・不具合について、講演者には事前のチェックが必要だと思う。

(杉山)：講演および要旨依頼の際に、講師への連絡を徹底するなどの対策を福山実行委員に依頼する。⇒福山実行委員長、了解した。

・(藤田)：第10回GIST講演の部屋が狭く、聞きたくても聞けなかった方も居たと思う。今後は人数に見合った企画を立てて欲しい。

・(日高)：参加登録したら要旨を事前に配布して欲しいという声が多いので検討して頂けないか。

(杉山)：事前・事後配布のメリット・デメリットを考え、今後の検討とさせて欲しい。

(信田)：Joncolを電子化したように、郵便料削減の点からもペーパーレスの電子化を今後検討されてはどうか？

・(日高)：要旨に、発表時間と質疑応答時間を区別して明記して欲しい。

(杉山)：合わせて何分という依頼にして演者一任にしていた。

(圓尾)：時間を決めておいて演者によっては早く終わるでも良いと思う。

(石田)：原則は決めておく。15分ならば、発表10分、質疑応答5分とする。

- (杉山) : 一般口演と症例報告は異なるがどうするか？
(佐藤) : 一般口演は決めるが、メインの症例検討は演者に任せたらどうだろうか？
(石田) : 一般口演は時間を決めておいて、メインの症例検討はアドバイザーや座長と企画委員会で事前に検討して企画委員会が伝達するではどうだろうか。⇒承認された。

<学術部会>

1) 外科部会 : 浅野部会長

●石田会長からメインテーマ(内科)の裏で外科テーマの企画要望が提示されたことに関して、早期に審議するよう了解した。

(会長) : 原則として、学会の1年前には企画案を提示して理事会で決定し、演者等には依頼ができるような半年前倒しをするつもりで進行する。との指示があったことに関して了解した。

2) 放射線療法部会 : 圓尾部会長

●第13回学会で担当する企画について検討を行った。

3) 内科部会 : 細谷部会長

■第11回メイン企画(500名)アンケート結果を踏まえて、顕微鏡セッションを企画した。具体的な内容は1月中に部会内決定、3月中旬には発表者決定。

(杉山) : 顕微鏡貸出のコストは？

(細谷) : 今回のPCを数台用意し、元スライドをバーチャルスライドに取り込んだ画面を1画面投影し、シンポジストはそれ以外にも用意したスライドを切り替えながらセッションを行う予定である。そのため顕微鏡の用意は不要で、スイッチャーとPCを利用する。⇒承認された。

4) 臨床研究部会 : 皆上部会長

■第13回(大阪)の1日目に2時間の臨床部会の企画は、学会誌および他学会も含めて、できれば同一疾患に絞り、優れた研究をされた方を招聘する方法で、演者を検討している。

5) 国際情報部会 : 辻本部会長

●報告事項等はなし。

6) 病理部会 : 賀川部会長

●7回分のメインテーマが決定しているので、企画を検討したいと思っている。

3. 世界獣医がん学会招致の報告 : 石田会長

●2013年10月VCSにて4年に1回行われるWVCS(世界獣医がん学会)は、2016年はブラジルで開催、2020年開催は対立候補なしで、JVS2日目に東京での開催が決定された。

●WVCSの通常の実行日は2月頃であり、本会1月の学会をその時は東京にして、同時開催が良いのではないかと考えている。

4. その他

1) 渉外・広報担当 : 武信理事

●外部学会の後援報告 : 日本獣医学フォーラム年次大会(9月)、JAHA国際セミナー(11月)、日本獣医内科学アカデミーにプログラム提供(2月)

2) その他
特になし。

【審議事項】

1. 世界獣医がん学会準備委員会（WVCS 準備委員会）設置に関して：石田会長
■準備委員会には現会長は入り、VCS のパイプが強い南先生・辻本先生、小林先生には加わってもらい、他に国際情報部会のメンバーからも選抜したい。⇒承認された。

2. その他

■FaceBook 公式ページの設置について：武信広報・渉外担当

本会ホームページまたは商業誌等の告知以外に、学会開催内容、認定医試験情報などを発信する目的で設置する。

（石田）：前向きに検討して欲しいが、非常に簡単に作れるものであり、間違った情報を発信する可能性もある。早急にガイドラインを作成して正しい公式ページをすぐに実行して良いと思う。⇒承認された。

■HP・商業誌の告知に伴い、企画委員会にプログラムの早めの決定を希望する。

【その他】

・（信田）前執行部から申し送りした日本学術会議の申請について。現執行部での学術会議への対応をどのようにしているか？されていないとすれば現執行部で承認を取って欲しい。

（石田）：選択肢は大学人を増やすか、臨床獣医師の学会として今まで大学人を交えながら臨床獣医師が意見交換をする活発な活動をしてきた実績を評価すると、ただ単に臨床に関係のない大学人を増やせば良いというものでもない。現会長としては日本学術会議への申請についてはかなり消極的である。

（信田）：他学会は認められており、承認されなかった理由として、会員比率があつたが、他学会とそんなに変わらない。ただ、新しく認める学会については従来の獣医学系の学会とは基準が異なるのか？

（石田）：本会からの要望を添えて申請の対応をして行く。
以上。